

Internet Week 2013 / IP Meeting 2013

～荒ぶるインターネットを乗りこなす～

開催報告

Internet Week 2013 ～荒ぶるインターネットを乗りこなす～ 開催レポート

2013年11月26日(火)から29日(金)まで、JPNICは今年もInternet Weekを開催しました。

◆ 合計41プログラムに延べ2,600人が参加

当日参加なども含めた今年の最終的な参加者は、昨年を400名程度上回り、約2,600名(延べ人数)となりました。

また、今年の総プログラム数は、41(有料プログラム28、無料プログラム10、懇親会1、同時開催イベント2)でした^{*1}。この41というプログラム数が、Internet Weekが東京開催になって以来最多であることは、2013年10月に発行したJPNIC News & Viewsでもご紹介しました^{*2}が、数が多いというだけでなく、どのプログラムも多くの方に参加いただきました。

◆ 「荒ぶるインターネットを乗りこなす」をテーマに

今年のテーマは「荒ぶるインターネットを乗りこなす」。これはInternet Week 2013事務局とInternet Week 2013プログラム委員の有志で検討し、決定したものです。

テーマを決めた当初は、「荒ぶる」という言葉が少し強すぎないだろうかかと心配したものでした。しかしながら、会期終了後の今改めて考えると、(後付けかもしれませんが)今回のテーマにふさわしかったのではないかと思います。インターネット関連で「荒ぶっている」と言うと、真っ先にセキュリティ関連の話題が思い浮かびますが、トラフィックの増加、SDN (Software Defined Networking)、NFV (Network Functions Virtualization)、HTML5など、2013年のInternet Weekで取り上げるべきトピックが多数あったこの1年を、良い意味で象徴しているのではないのでしょうか。

◆ 定番以外も注目を集めた有料プログラム

2011年頃から徐々に、営業職や企画職などエンジニア以外の方のご参加が増えていますが、Internet Weekの参加者は、まだまだネットワークの構築/設計や運用/保守に携わる方が多いです。そのため、人気プログラムと言えばIPv6、DNS、ルーティングなどネットワーク運用に関するものが中心ですが、今年はそれ以外のプログラムでも多く参加者を集めました。

顕著だったのはセキュリティ関連で、2012年も好評だった標的型攻撃やサイバー犯罪に関するプログラムの他、DDoS攻撃や組織におけるセキュリティ対策を扱ったプログラムでは、会場内で最も大きいアキバホールが多くの参加者で埋まりました。また、法律や会計、著作権・プライバシーなどいわゆる「文系科目」が今年も堅調で、特に2012年満席となり2013年も開催した財務会

計のプログラムは、そろそろInternet Weekの定番プログラムの仲間入りをするのではないのでしょうか。

◆ 無料プログラムもバラエティ豊かに

初日(11月26日)午前中に開催した「ドメイン名・IPアドレス管理の基礎知識」は、JPNICの自己紹介とも言えるべきプログラムです。アンケート結果や参加者の当日の反応を参考に、少しずつマイナーチェンジを繰り返して今年で3回目。すっかりInternet Weekのオープニングプログラムとして定着しました。

11月27日を除く各日のお昼休みには、ランチセミナーが開催されました。毎年真っ先に満席になる株式会社日本レジストリサービスの他、海外からの講演者を迎えて自らのサービスをアピールしたICANNと、TATA Communicationsの講演は、日本のインターネット関係者への注目度の高さをうかがわせました。

また、最終日(11月29日)を除き、夕方からは公募によって選ばれたプログラムであるBoFが開催されました。毎年Internet Weekの場をご活用いただいているおなじみのBoFに加え、インターネットの歴史、迷惑メール対策や若手エンジニア間の意見交換などが今年新たに開催され、「常連」BoFの主催者からは、これらに負けないよう(?)、自分たちのBoFも魅力あるものにしたという声もありました。

◆ 三つのSSIDが並んだ会場ネットワーク接続情報

会場ネットワークの構築・運用を担当するネットワークチームは、JPNIC事務局の技術部職員を中心に、ボランティアのサポートメンバーで構成されています。

サポートメンバーには、ICT教育推進協議会(ICTEPC)のご協力でお手伝いいただいている専門学校生の皆様に加え、今回はJPNICでも独自にメンバーを募集しました。ネットワークチームのメンバーも約2倍に増え、毎年提供しているDual Stack接続に加えて、IPv4/IPv6共存技術である464XLAT接続、MAP-E接続も提供することができました。会場ネットワーク構築の詳細については、2014年1月に発行したJPNIC News & Viewsでもご紹介しています。

□ Internet Week 2013の会場ネットワーク構築チームに参加して
<https://www.nic.ad.jp/ja/mailmagazine/backnumber/2014/vol1161.html#column>

◆ 会場に巻物! インターネット歴史に関する情報提供を求めて

実際に手に取られた方もいらっしゃるかもしれませんが、総合受付の近くには大きな「巻物」が置いてありました。JPNICが2013年9月に正式版を公開した「インターネット歴史年表^{*3}」を、実際に紙に印刷し製作したもので、その全長は20メートル近くあります。

昔からインターネットに関わっている方が多数来場するであろうInternet Weekの場をお借りして、不足する情報を記入していただきたくて作ったものです。

◆ 最後のプログラムは懇親会 ～ JPNIC20周年を記念して～

Internet Week 2013の締めくくりは、最終日(11月29日)に開催した懇親会でした。

2013年はJPNIC設立20周年の年にあたります。JPNICの主な事業の一つであるInternet Weekを支えていただいていることに感謝し、IP Meetingの参加者と、有料セッションに三つ以上お申し込みいただいた方を、この会に無料でご招待しました。後藤滋樹 JPNIC理事長の開会挨拶の言葉を借りれば、これらの方々はいづつもInternet Weekにご参加いただいている常連さん⁴と言えます。この他に講演者、スポンサーの皆様、Internet Weekプログラム委員、JPNIC役職員などが参加しました。また会の中ほどでは、2013年にISOC (Internet Society)インターネットの殿堂入りを果たした、JPNIC顧問でもある村井純氏が駆けつけました。

◆ Internet Week 2013 概要

<p>【会期】 2013年11月26日(火)～29日(金) 4日間 [同時開催イベント] IPv6 Summit in TOKYO 2013 (11月25日) 第25回 JPNIC オープンポリシーミーティング (11月26日)</p> <p>【会場】 富士ソフト アキバプラザ 東京都千代田区神田練堀町3 富士ソフト秋葉原ビル http://www.fsi.co.jp/akibaplaza/cont/info/access.html</p> <p>【URL】 https://internetweek.jp/ Twitter https://twitter.com/InternetWeek_jp Facebook https://www.facebook.com/InternetWeek</p> <p>【主催】 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)</p> <p>【企画】 Internet Week 2013プログラム委員会</p> <p>【協賛】 株式会社日本レジストリサービス / TATA Communications / The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers (ICANN) / IP Mirror Japan株式会社 / NTTコミュニケーションズ株式会社(OCN) / 株式会社SRA / 日本インターネットエクスチェンジ株式会社</p> <p>【ネットワークスポンサー】 シスコシステムズ合同会社 / 富士ソフト株式会社 / 日本インターネットエクスチェンジ株式会社 / 株式会社インターネットイニシアティブ</p>	<p>【後援】 総務省 / 文部科学省 / 経済産業省 ICT教育推進協議会 (ICTEPC) IPv6普及・高度化推進協議会 (v6pc) 一般財団法人 インターネット協会 (IAJapan) Internet Society Japan Chapter (ISOC-JP) 仮想化インフラストラクチャ・オペレーターズグループ (VIOPS) 一般社団法人 クラウド利用促進機構 (CUPA) 一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ) 一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター (JPCERT/CC) 一般社団法人 情報サービス産業協会 (JISA) 独立行政法人 情報通信研究機構 (NICT) 一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会 (JAIPA) 日本シーサート協議会 (NCA) 日本DNSオペレーターズグループ (DNSOPS.JP) 一般財団法人 日本データ通信協会 (Telecom-ISAC Japan) 日本ネットワーク・オペレーターズ・グループ (JANOG) 特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) 日本UNIXユーザ会 (jus) フィッシング対策協議会 WIDEプロジェクト (WIDE)</p>
--	--

(JPNIC インターネット推進部 坂口康子)

IP Meeting 2013 ~荒ぶるインターネットを乗りこなす~ 開催報告





IP Meetingは、その年のインターネットの状況を総括し、今後に向けた議論を行う会合として機能してきました。昨今はInternet Weekのメインプログラムとして、プレナリのような位置付けにもなっています。

今回も、午前中には「Internet Today!」と題し、インターネットの運用にかかる2013年のホットトピックを総括しました。そしてそれを踏まえ、午後の部では主に「セキュリティ」と「グローバル」の観点から、我々が多様化する環境下で、セキュリティ等の課題を克服しながら、いかにグローバルにも展開していけるのかを考察する仕立てで「荒ぶるインターネットを乗りこなす」ことを考えました。

また合間には、Internet Week 2013の全最新動向セッションをそれぞれ5分で紹介する、ライトニングトーク大会も実施しました。本稿では、それぞれの模様について簡単に報告します。

◆ 午前の部：Internet Today! (Internet Operational Issues 2013)


午前の「Internet Today!」は、「1)現在のインターネット運用動向」「2)インターネット新技術の標準化動向」「3)オープンデータの現状を知る ~機械可読なデータの活用と作成~」「4)インターネット資源をめぐるインターネットガバナンスの状況」という四つのパートに分かれています。

<p>1)現在のインターネット運用動向</p>  <p>講演者: 吉田 友哉 氏 (インターネットマルチフィード株式会社)</p> <p>2013年のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラフィック動向 <ul style="list-style-type: none"> - 従来増加、スマホ等のモバイルトラフィックが継続的に増加(年1.7倍) - 急激なトラフィックの増減も相増、モバイルトラフィックは注意点も異なる ・ルーティング動向 <ul style="list-style-type: none"> - 枯渇後もIPv4は依然増加、IPv6も単調増加 - 2byteAS番号は残り500AS、2014年にIANAプールの枯渇が予想される ・DNS動向 <ul style="list-style-type: none"> - オープンソルバ問題と共に解決に向けた取り組みが積極的に - Bind祭り等のセキュリティアップデートが相変わらず発生 ・セキュリティ動向 <ul style="list-style-type: none"> - 国際情勢に限らずサイバー攻撃は今年も確認された - フォレンジング等には引き続き注意が必要 ・日本と世界の動向 <ul style="list-style-type: none"> - 増加率はそれほど大きな差はないが規模は世界の約5倍程度 - IPv6通信量はまだ1%未満、これからの動向に注目 <p>インターネットマルチフィード株式会社の吉田友哉さんに、2013年のルーティング・トポロジ・トラフィック・DNS等の運用の動向を総括してもらいました。</p>	<p>2)インターネット新技術の標準化動向</p>  <p>講演者: 関谷 勇司 氏 (東京大学情報基盤センター/WIDEプロジェクト)</p> <p>東京大学情報基盤センター/WIDEプロジェクトの関谷勇司さんがIETFにおける技術標準化動向のうち、主なものの総括を行うものでした。関谷さんには毎年のことながら、IETFの五つのエリアから32のワーキンググループを、20分で紹介してもらおうという離れ業に挑戦していただきました。</p>
<p>3)オープンデータの現状を知る ~機械可読なデータの活用と作成~</p>  <p>講演者: 関 治之 氏 (Georepublic Japan)</p> <p>この内容は今回独自のものです。最近、ビックデータやオープンデータがパスワードとなり、こうしたデータの積極活用により、競争力を上げていくという機運が高まっています。このセッションでは、実際に各自治体によって公表されているデータを使い「WHERE DOES MY MONEY GO? ~税金はどこへ行った?~」を立ち上げている関さんに話を伺いました。その中で、なぜオープンデータが注目されているのか、世界と日本におけるオープンデータについての取り組みの違い、すでに実績の出ている具体的な活用事例などについて紹介いただいた後、これからのオープンデータによる活用などについても考察がなされました。</p>	<p>4)インターネット資源をめぐるインターネットガバナンスの状況</p>  <p>講演者: 市川 麻里 氏 (総務省 情報通信国際戦略局 国際政策課)</p> <p>Kuo-Wei Wu氏 (The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers(ICANN))</p> <p>奥谷 泉、前村 昌紀 (一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター)</p> <p>IPアドレス・ドメイン名というインターネット資源の観点から、また同時にインターネットにおける国際公共政策課題に関する国際的な議論として、IGF、国連、ITUなどの組織の動向について概括的に報告されました。またその後、ICANNのWu氏も加わってミニパネルディスカッションが開かれました。Wu氏の以下の引用が印象的でした。</p> <p>国境を越えるインターネットの性質は、法律が国単位で定められている現在の枠組みに対して課題を投げかけている。残念ながら、この課題から発生する緊張状態に対する政府間の議論は、主権の適用に関するイデオロギー上の、堂々巡りの内部論争に陥りやすい。</p> <p>- Bertrand de La Chapelle</p>

◆ 午後の部：荒ぶるインターネットを乗りこなす

午後の部は、2013年を振り返りながらもそれを元に今後を見据えていくために、考える時間を持つセッションが続きます。2013年はSpamhausに対する大規模なDDoS攻撃が印象的でしたが、その「セキュリティ」、そして「グローバルに生き残るために」という大きな二つの観点を据えました。その合間にInternet Weekの全最新動向セッションをライトニングトーク形式でサマライズするセッションを間に挟み、三部構成でお送りしました。

○荒ぶるインターネットを乗りこなす セッションI:インターネットのセキュリティを真剣に考える

 <p>砂田 務 氏 (警察庁警備局警備企画課 サイバー攻撃対策官 警視長)</p> <p>『警察による サイバー攻撃対策』</p>	<p>最初に「警察によるサイバー攻撃対策」と題して、ネットワークセキュリティの問題について、2013年5月に警察庁内に設置された「サイバー攻撃分析センター」における分析結果や、2013年を象徴するトピック、政府における取り組みも紹介し、総括してもらいました。その上で、「2013年のインターネットを振り返る/リアルタイム調査 ~Webでチェック、あなたのセキュリティ意識~」と題し、2013年に起こったセキュリティインシデントを振り返りながら、その合間に都度Web上でリアルタイムにアンケートが取れる「Mentimeter」というツールを使って、全参加者を対象として、「あなたの組織ではその問題が起こった場合、どう対処するか」を調査し、その場で結果を出しながら分析するというユニークなセッションを行いました。</p> <p>このセッションは新しい試みで大変面白かったので、もっと詳しく紹介したいのですが、川口さんご本人による@ITの連載記事で詳しく紹介されていますので、そちらに譲ります。ぜひご覧ください。</p> <p>URL:http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1014/29/news002.html</p>
 <p>川口 洋 氏 (株式会社ラック)</p> <p>『2013年のインターネットを 振り返る/リアルタイム調査 ~Webでチェック、あなたの セキュリティ意識~』</p>	

○「Internet Week 2013 最新動向セッション」の総括から見る、2013年のインターネット

Internet Week 2013で開催した「最新動向セッション」12セッション(次表の通り)のエッセンスを、それぞれの担当プログラム委員が5分間の持ち時間で、紹介しました。

それぞれのセッションの要約はもちろんのこと、「どうしてこのセッションを企画したのか」「実際にやってみてどうだったのか」という話の中からも、2013年のインターネットの動向が見えたのではないのでしょうか。

<p>S2</p> <p>プログラム名: DDoS攻撃の実態と対策 話者: 佐藤 友治(インターネットセキュリティ専門家)</p>	<p>S8</p> <p>プログラム名: SDN時代を生き抜く為のグラフ理論とネットワークのアルゴリズム入門 話者: 浅間 正和(日本Vyattaユーザ会)</p>
<p>S3</p> <p>プログラム名: サービスプロバイダWi-Fiサービス最新動向 ~サービス設計の技術詳細から公共無線インフラとしての課題まで~ 話者: 土屋 師生子(日本ネットワーク・オペレーターズ・グループ(JANOG)/シスコシステムズ合同会社)</p>	<p>S9</p> <p>プログラム名: インターネット対応を迫られる法制度 ~著作権とプライバシー~ 話者: 秋山 卓司(一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)/クロストラスト株式会社)</p>
<p>S4</p> <p>プログラム名: 標的型攻撃の現状と対策2013 話者: 満永 拓邦(一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC))</p>	<p>S10</p> <p>プログラム名: ビックデータ時代のプライバシー保護技術 話者: 山崎 信(一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC))</p>
<p>S5</p> <p>プログラム名: モバイル時代のインターネット ~ソーシャルプラットフォーム設計最前線から~ 話者: 平井 則輔(日本ネットワーク・オペレーターズ・グループ(JANOG)/ソフトバンクBB株式会社)</p>	<p>S11</p> <p>プログラム名: SDNからNFVへ ~ネットワーク仮想化パズルの完成を目指す~ 話者: 伊賀野 康生(ベライゾンジャパン合同会社)</p>
<p>S6</p> <p>プログラム名: サイバー犯罪の動向と対策、インターネットのセキュリティと通信の秘密 話者: 木村 孝(一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA))</p>	<p>D1</p> <p>プログラム名: 荒ぶるインターネットを乗りこなす! ルーティング&ルーティングセキュリティ 話者: 岡田 雅之(一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC))</p>
<p>S7</p> <p>プログラム名: IPv4アドレス枯渇後の選択 ~IPv4アドレス移転と共有技術の最新動向~ 話者: 川端 宏生(一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC))</p>	<p>D2</p> <p>プログラム名: DNS DAY 話者: 坂口 智哉(株式会社日本レジストリサービス(JPRS))</p>

○荒ぶるインターネットを乗りこなす セッションII:グローバル化の波を乗りこなすには

IP Meetingの、そしてInternet Week 2013の最後を締めくくるセッションです。今回のInternet Weekのテーマは、「荒ぶるインターネットを乗りこなす」ですが、その中でも「グローバルの波をどう乗りこなすか」をテーマに、モデレータはJPNICの副理事長である江崎浩が務め、そのタイトル通りグローバルにビジネスを展開する4人のパネリストを迎えたセッションとなりました。

○スピーカー

- モデレータ: 江崎浩(東京大学/JPNIC副理事長)
- 講演者: 福智 道一(BBIX株式会社 専務取締役 兼 COO)
- 古田 敬(エクイニクス・ジャパン株式会社 代表取締役)
- Hon Kit Lam (Vice President, International Transmission and IP Services, TATA COMMUNICATIONS)
- Kuo-Wei Wu(Member of the Board of Directors, The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers (ICANN))

グローバルで自由でパワフルなインターネットの広がり、ビジネスチャンスでもあると同時に、インターネットが国という垣根や縛りを簡単に超える性質上、脅威でもあります。特に昨今では、インフラのクラウド化も進み、コンテンツ中心の状態にインターネットが変わってきていることから、グローバル化の加速の影響は特に顕著になっています。このような状況から、「技術」の観点からだけでなく、国という枠組みの制約やフィルタリングのポリシーなどという「ガバナンス」の面もあわせて、他の国とのミスマッチや構造の変化など現在直面している問題について捉え、その上で、日本に期待されていることなどを考えていくべきだと考えました。

特にこれから、インターネットの世界では、APRICOTやIETFの日本招致もあり、インターネットだけに関わることでありませ

○現在の通信状況について



福智氏

最近の日本のトラフィックは年間約30%ずつ、特にスマートフォンの普及でモバイルは年間2倍ずつ伸びています。10%のユーザーがスマートフォンに変わるだけで、トラフィック量は倍になり、ショートバケットでセッション数も多いため、ルーターとサーバに負荷がかかります。時間帯も今までは夜がピークでしたが、モバイルでは朝昼夜にピークがあり、状況が変わっています。また、クラウドのトラフィックも昔のようにサーバとユーザーのような一方向ではなく、システム内で両方からAPIにアクセスします。トポロジーの変遷を見ても、これまではTier1が偉い時代でした。しかしクラウド時代の今は、ハイパージャイアントがいて、コンテンツ網とユーザー網が一体化しています。

アメリカのトラフィックは、リアルタイムエンターテインメントやブラウジングの割合が大きいです。アジアの場合はソーシャルネットワークの割合が大きく、これは当然モバイルの状況も反映しているでしょう。また、ハイパージャイアントが上位レイヤーのトラフィックを占める割合がより大きくなり、一極化している状況も見取れます。CDNが事実上のネットワークと化しているともいえるでしょう。その中でトランジットとピアリングの比較においてはコストの差が狭まっており、データセンターやIXにとっては、ピアリングのコストメリットがなくなっています。そうなる単純なコストで比較ではなく、「何のためにやるのか」、つまりネットワークや運用の観点から考えた性能、品質、冗長性、物理的に場所が強い等の、そういった観点を総合的にとらえ、何が重要であるためどのようなネットワークを作るのかの選択となってきます。



古田氏

んが、2020年には東京オリンピックも開かれます。しかし、ネットワークショーケースをInternet Weekで実施するのも世界的には珍しいのに、そういうことはグローバルに発信されておらず、日本の情報がうまく発信されていない現状があります。

BBIX社の福智氏には、モバイル事業者、ISP、クラウド事業者、特にCloudIXという視点からそれらの問題について語っていただきました。

エクイニクス・ジャパン社の古田氏からは、キャリアに依存しない世界最大のデータセンターとして、現在の通信の状況や、インフラとピアリングポリシーの話などをいただきました。

TATA Communications社はケーブルがまさに地球を一周する世界一のキャリアです。同社のLam氏には、グローバルTier1として、アジアのネットワークとグローバル接続にける思い、そして問題点についても言及していただきました。

ICANNのWu氏からは、ビジネスの領域からではない、ICANNとして、日本に期待すること、共有したいことを技術、ガバナンスの両面から、さらに今ある一般的な問題と懸念や、今後の期待などを述べていただきました。

このセッションは、IP Meetingとしては初めて、同時通訳付きでお送りしました。各人がどのようにこのグローバル化の波を乗りこなしながら、インターネットの健全な発展を推し進めているのか、次の通り各パネリストの主な発言をまとめました。



Lam氏

TATA Communicationsのデータや実績から見ると、毎年60%位トラフィックが増加しており、日本・韓国・香港がそのトップ3に入ります。グローバルの領域においてクラウドを提供する事業者が出て来る中、コスト削減をどうするのか、品質をどう上げてサービスを提供するのか、データの置き場所とセキュリティや秘密保持とルーティング、品質というパイプをどう提供するのが当社として気をつけている点です。

○これから我々はどうしていくべきか、日本に期待すること



福智氏

このような時代は、すべてのネットワークプレイヤーにとって、複雑なネットワークになるよりもIXにつながるほうが簡単な状況になっていると言えるのではないのでしょうか。モバイルだけでなく、アクセス、データセンターなどがいかに一体化し、オペレーションと協調していくか、これを目指して何をデザインするかが、CloudIX研究会でも一番のテーマです。End to Endで接続を考える。何といてもピアリングを今まで以上に促進し、BGP以外の新たな接続方法で最適化することも考えてもいいかもしれません。コミュニティで化学変化を生み、トラフィックをコントロールし、インターネットを変えたいと考えています。

アジアの観点で言うと、中国のモバイルトラフィックが日本を抜き、他のアジア諸国にも抜かれるかもしれません。この中で、日本のキャリアはインフラにすでに相当の投資をしており、技術水準が高いです。アジア諸国は、いきなりLTEに移行するという話もあります。ここで日本のノウハウや日本の話をもっと海外に展開してもよいのではないかと感じます。クロードにする必要もないし、苦勞した活動などを発信することで、もっとつながっていければと思います。

選択肢のある中立的な環境を提供するのは我々の仕事であり、使命と捉えています。その中で何を選擇するかは各事業者が考えていくべきです。日本で分散を何のためにやるのか、グローバルの位置付けも含めて考えるべきです。

ネットワーク全体のトポロジーがどう変わっていくか、変わりつつあるのでしょうか。またネットワークと同様、クラウド中心の世界がリアルになっています。日本の企業は「何がグローバルか?」と考えますが、多くの外国企業がそもそも自分らはグローバルの一員だと考え、地球儀の上で絵を描いています。そういうスケールで物事を捉えている時代です。日本人と発想が違います。日本対グローバルのような話がありますが、そうではなく、それとは逆に発想の順番を変えていくことが重要ではないでしょうか。企業は業績が大切なので、「戦う姿勢」もやはり必要です。「和をもって貴しとする」という日本的な考えは、ある意味アドレナリンが足りない気がします。向かう先は世界です。



古田氏



Wu氏

ICANNは非政府組織であり、ビジネスセクターではありませんがビジネスの方のことを考えて活動をしている組織です。具体的には、インターネット上におけるポリシーを多く取り扱っています。ここには多くのビジネスパーソンは「インターネットでビジネスしているから」という理由で参画しています。

アメリカにおいては「オンライン海賊行為防止法案(Stop Online Piracy Act:SOPA)」が議論を巻き起こしていますし、また欧州でも、偽造品やインターネット上の著作権侵害を取り締まるための新たな国際機関を作ることも視野に入れた「偽造品の取引の防止に関する協定Anti-Counterfeiting Trade Agreement, ACTA)の批准が否決されました。コンテンツや個人情報に関する国の規制が、インターネットでのグローバルカンパニー、社会にとって障害になることは避けたいことです。だからその抑止にもICANNが重要な役割を果たしています。

ICANNは米国中心だと言う人もいますが、それを卒業して今は多極化しています。米国商務省電気通信情報局(National Telecommunications and Information Administration: NTIA)との話し合いによって、シンガポールとイスタンブールにもオフィスが作られており、ポリシーに米政府が関与したことはありません。コンテンツやその著作権についての議論は根が深く、ロビーイングをやっている活動も多くみられます。こういう議論に日本人も、日本だけの視野でなく、ぜひグローバルな活動としてもっと参画して欲しいと考えています。

◆おわりに

IP Meetingに出てくださいる講師の方々の意気込みは、いつも本当に素晴らしく、発表内容がとても充実しているのはありがたいことです。公開されている資料を眺めるだけで、かなりの情報量になります。2013年のインターネットがどのようなものであったか、よく理解できること請け合いです。ぜひ、ご覧になってみてください。

(JPNIC インターネット推進部 根津智子)



● IP Meetingの終了後には懇親会が開かれ、多くの方にご参加いただきました